

事 務 連 絡

平成 26 年 3 月 25 日

各

都道府県
指定都市
中核市

 民生主管課 御中

厚生労働省老健局高齢者支援課

福島県相双地域等への介護職員等の応援について（結果）

東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う、福島県相双地域等における特別養護老人ホーム等の職員不足に対応するため、平成 24 年 6 月 4 日付け事務連絡「福島県相双地域等への介護職員等の応援について（協力依頼）」を通知し、応援職員の募集を行っているところです。

今般、第 8 期募集期間の応援施設と受入希望施設との条件の調整（マッチング）が整い、別添のとおり公表しましたのでお知らせします。

なお、福島県相双地域等では、未だ介護職員等の人材不足が続いていることから、応援職員を引き続き募集しますので、改めて管内市町村、事業者等へ周知していただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

平成26年 3月25日(火)
【照会先】代表03(5253)1111
老健局高齢者支援課
(担当・内線) 課長補佐 高橋洋一(内線3970)
(直通電話) 03(3595)2888

報道関係者 各位

福島県相双地域等への介護職員等の応援について（結果）

東京電力福島第一原子力発電所事故による、福島県相双地域等における特別養護老人ホーム等の職員不足に伴い、平成24年6月4日付け事務連絡「福島県相双地域等への介護職員等の応援について（協力依頼）」を通知したところでありますが、このたび、第8期応援期間（26.4.1～6.30）の応援施設と受入希望施設との条件の調整（マッチング）が下記のとおりとなりましたので、お知らせします。

なお、受入希望人員に対する応援人員が不足していることから、福島県社会福祉協議会において引き続き応援事業の募集を実施しています。

記

（単位：カ所・人数）

受入希望施設	施設種別	受入希望人員	受入人員 (26.4.10) 時点見込	第8期応援期間 (26.4.1～6.30)見込		参考：第1～7期応援期間 (24.7.1～26.3.31)の実績	
				応援施設	応援延べ人員	応援施設	応援延べ人員
南相馬市							
長寿荘	特別養護老人ホーム	2	2	12	12	53	77
福寿園	"	2	2	11	12	71	88
竹水園	"	2	2	12	12	71	87
長生院	介護老人保健施設	5	0	0	0	11	23
飯館村							
いいたてホーム	特別養護老人ホーム	1～2	0	0	0	3	5
広野町							
花ぶさ苑	特別養護老人ホーム	4	3	12	12	55	74
いわき市							
シーサイド パインビレッジ	介護老人保健施設	1～2	0	0	0	19	22
	計	17～19	9	47	48	283	376

- ・「受入希望人員」については、受入希望施設が応援期間3ヶ月間で受入れを希望する人数。
- ・第8期「応援延べ人員」については、調整の結果、14日～1ヶ月程度の応援する人数で、延べ48名の応援見込み人員となっている。（全国社会福祉施設経営者協議会の取組みを含む。）

（参考）本事業の詳細：福島県社会福祉協議会HP <http://www.fukushimakenshakyo.or.jp>

（改正後全文）

平成24年5月31日
福島県相双地域等福祉人材確保対策会議決定

平成24年7月17日 一部改正
平成24年12月25日 一部改正
平成26年 1月16日 一部改正

福島県相双地域等への介護職員等の応援事業実施要綱

1 事業の目的

福島県相双地域、いわき市及び田村市の一部（以下「相双地域等」という。）の介護保険施設及び障害者支援施設等（※）においては、東京電力福島第一原発事故等の影響により、退職した介護職員等の補充が進まず、人材確保が喫緊の課題となっていることから、雇用による職員の確保を基本としつつも、応急的な措置として、全国からの介護職員等の応援により対応することとする。

※ 以下3（2）施設種別の施設等を指す。

2 事業概要

相双地域等の施設からのニーズに対し、全国の介護保険施設及び障害者支援施設等（※）から応援可能な職員を募り、条件の整った職員が、相双地域等の当該施設において応援を行う。

※ 以下4（3）対象施設の施設等を指す。

3 応援先の施設

（1）所在地

福島県相双地域（相馬市、南相馬市、新地町、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、広野町、飯館村、葛尾村、川内村）、いわき市及び田村市の一部（旧緊急時避難準備区域に限る。）。

ただし、警戒区域、帰還困難区域、居住制限区域（※）及び避難指示解除準備区域は除く。

※ 原子力災害対策本部において、特例的に事業継続を認められている「いいたてホーム」については、応援対象施設とする。

（2）施設種別

特別養護老人ホーム及び介護老人保健施設並びに障害者支援施設、障害児入所施設及び宿泊型自立訓練

4 募集（応援）内容

上記3に記載する応援先の施設（以下「受入施設」という。）のニーズに応じて、おおむね以下のとおりとする。

- （1）募集職種 介護職員を中心に受入施設の配置基準に規定されている職種
- （2）応援期間 平成24年7月1日～平成27年3月31日の間で、2週間～3ヶ月間程度のサイクル。
- （3）対象施設 特別養護老人ホーム及び介護老人保健施設並びに障害者支援施設、障害児入所施設及び宿泊型自立訓練

5 コーディネーターの設置

- （1）受入施設のニーズの把握、上記4の募集（応援）内容の取りまとめを行い、それぞれの条件を調整（マッチング）し、応援職員を決定するコーディネーターを福島県社会福祉協議会に設置する。
- （2）コーディネーターは、条件の調整（マッチング）に当たり、必要に応じて関係団体から意見を聴取することができる。
- （3）福島県相双地域等福祉人材確保対策会議はコーディネーターの求めに応じ、調整業務が円滑に行われるよう、協力するものとする。

6 費用

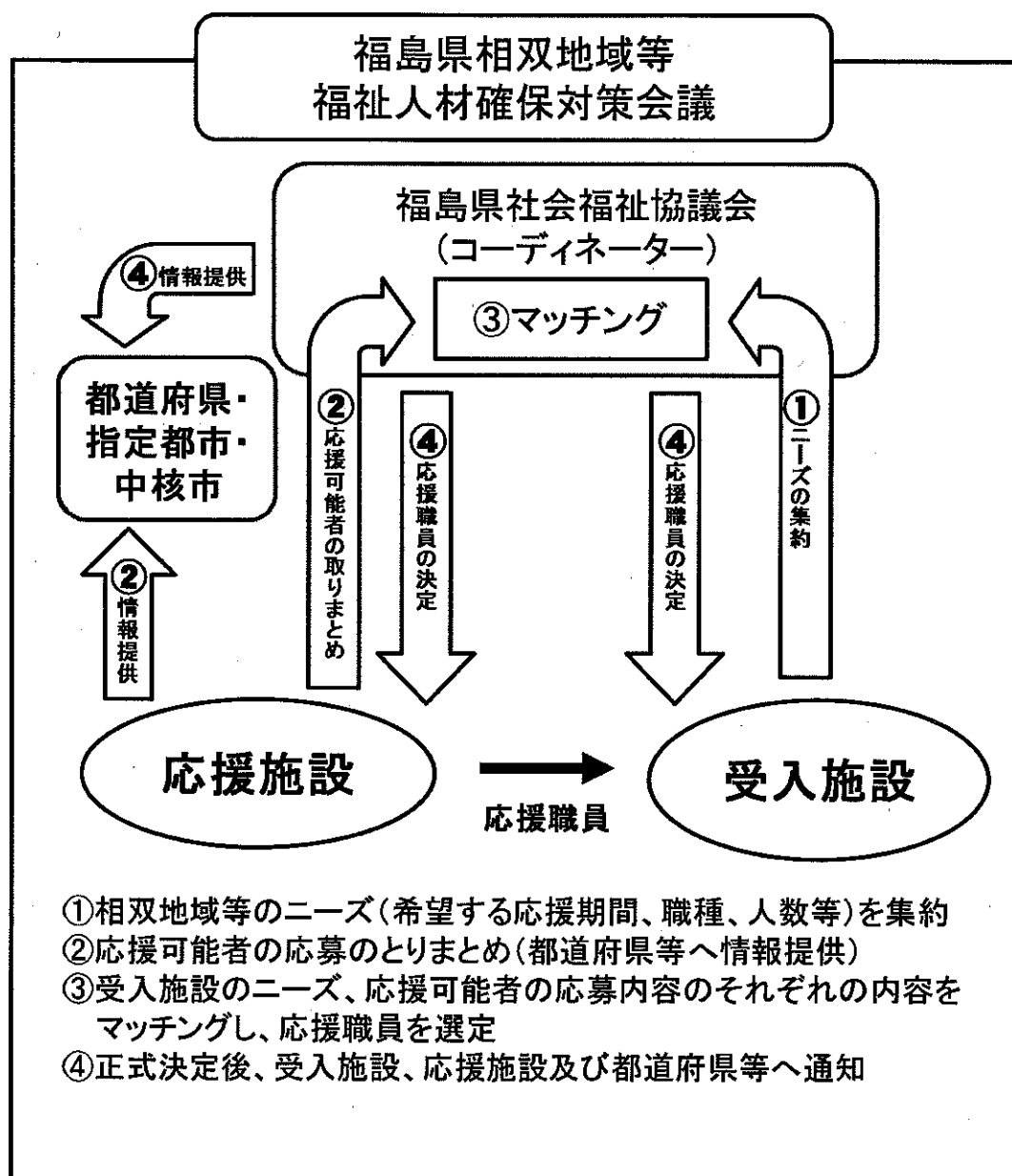
本事業の実施に要する費用は、福島県が負担する。

7 その他

募集方法など本事業に関する詳細な内容については、福島県相双地域等福祉人材確保対策実務者会議において調整する。

【参考】

福島県相双地域等への介護職員等の応援事業のイメージ



(改正後全文)

平成24年5月31日
 福島県相双地域等福祉人材確保対策実務者会議決定
 平成24年12月25日 一部改正
 平成25年3月11日 一部改正
 平成26年1月16日 一部改正

福島県相双地域等への介護職員等の応援事業に係る募集要領

「福島県相双地域等への介護職員等の応援事業実施要綱」（平成24年5月31日付福島県相双地域等福祉人材確保対策会議決定）に基づき実施する応援に関し、募集等についての具体的な内容は以下のとおりとする。

1 募集対象自治体

全国の自治体とする。

2 募集期間及び応援期間

今後の職員不足の解消状況を踏まえて対応するため、下記のとおり募集期間を区切り実施する。

区分	募集期間		応援期間
	開始日	締切日	
1	24.6.4	24.6.15	24.7.1～24.9.30
2	24.8.1	24.8.15	24.10.1～24.12.31
3	24.11.1	24.11.15	25.1.1～25.3.31
4	25.2.1	25.2.15	25.4.1～25.6.30
5	25.5.1	25.5.15	25.7.1～25.9.30
6	25.8.1	25.8.15	25.10.1～25.12.31
7	25.11.1	25.11.15	26.1.1～26.3.31
8	26.2.1	26.2.15	26.4.1～26.6.30
9	26.5.1	26.5.15	26.7.1～26.9.30
10	26.8.1	26.8.15	26.10.1～26.12.31
11	26.11.1	26.11.15	27.1.1～27.3.31

※募集期間等については、福島県社会福祉協議会HP (<http://www.fukushimakenshakyo.or.jp>)に掲載。

なお、上記応援期間後においても、依然として介護職員等の不足状況が改善されない場合は、改めて応援職員の募集を行うことがある。

3 募集（応募）方法

- (1) 都道府県、指定都市及び中核市（以下「都道府県等」という。）は、管内に所在する介護保険施設及び障害者支援施設等に、別紙の「介護職員等応援可能者登録票」（以下「登録票」という。）を送付する。
- (2) 介護保険施設及び障害者支援施設等は、必要事項を記載要領等に従い記載後、登録票をコーディネーターである福島県社会福祉協議会へ送付（登録）するとともに、都道府県等に対し情報提供を行う。

4 応援職員の決定

コーディネーターは、次の手順により応援職員を選定、決定する。

- (1) 相双地域等の受入施設のニーズと、送付された登録票のそれぞれの条件からマッチングを行い、応援職員を選定する。
なお、マッチングに当たっては、関係団体から意見を聞くことができる。
- (2) すべての条件が合致している場合であっても、選定した応援職員の所属する施設を通じ、あらかじめ本人の意向を確認する。
- (3) 意向確認の結果、本人等の了解を得られた場合には、受入施設及び当該応援職員の施設（以下「応援施設」という。）に対し、受入施設名等、応援期間、現地での住居及び通勤手段を記載した「依頼状」を発行するとともに、応援施設の所在する都道府県等に対し情報提供を行う。

5 応援に係る費用等について

当該応援職員の人件費については、平成23年4月15日付事務連絡「東日本大震災」による社会福祉施設等に対する介護職員等の派遣に係る費用の取扱いに基づき適切に対応するものとする。

また、応援職員の旅費、宿泊費及び通勤に要する費用については、福島県社会福祉協議会を通じ福島県が負担する。

6 その他

2の募集期間締切日後に当該期間に係る応援に関し、積極的な応援準備が整っている施設がある場合には、福島県社会福祉協議会まで情報提供いただき、個別に調整するものとする。

照会先

福島県保健福祉部高齢福祉課	024-521-7164
福島県保健福祉部障がい福祉課	024-521-7240
福島県社会福祉協議会	024-523-1256

平成 年 月 日 現在

介護職員等応援可能者登録票

都道府県・市名 _____

施設種別	特養 ・ 老健 ・ 障害（児・者・宿泊型）		
施設名		住所	
担当者名		電話・FAX・E-mail	

送付時点で派遣者が特定出来る場合

	性別	年齢	応援可能期間（日間）	資格・職種	備考
例	男	45	26.4.1～6.30(91日間)	介護福祉士	
1					
2					
3					

送付時点で派遣者が特定出来ない場合

	性別	年齢	人数	応援可能期間（日間）	資格・職種	備考
例	—	—	2人	26.4.1～4.28(28日間)	介護福祉士	14日間で交代
1						
2						
3						

- ・ 資格・職種欄には、それぞれの施設の配置基準に規定されている職種をご記入ください。
- ・ マッチングの過程で、福島県社会福祉協議会の担当者から確認をさせていただきます。
- ・ 応援職員の受入れには、受入施設の状況（住居の確保等）によりご希望にお応えできない場合、また、マッチングに時間がかかることも考えられますので、あらかじめご了承ください。
- ・ 応援可能期間については、応援募集期間の終期にとらわれることなく記載ください。

受付日	
整理番号	

問合せ先

福島県社会福祉協議会 福祉サービス支援課

電話：024-523-1256

FAX：024-524-3618

E-mail: shisetsu@fukushimakenshakyo.or.jp

福島県相双地域等における高齢者施設等に対する介護職員等の応援・受入にかかるQ&A

参考

Q	A
<p>1 応援職員に労災保険の適用はあるのか。(現地に着くまでが通勤災害になるのか) 【H23.3.25】</p>	<p>・ 現地での業務上又は通勤による災害についてはもちろん、自宅又は応援施設から現地の受入施設への移動の際の事故についても、労災保険の対象となります。</p>
<p>2 職員が応援に行くことによつて、施設配置基準を下回ることとなるのか。その場合、報酬は、減算対象となるのか。 【H23.3.18】、【H23.3.22】</p>	<p>・ 利用者の処遇に著しい影響が生じない範囲であれば、応援により、配置基準を一時的に下回ってもやむを得ないと考えており、自治体におかれどもご配慮をお願いいたします。また、報酬については、減額対象とはなりません。</p>
<p>3 専門職種が異なる施設への応援もあり得るのか。</p>	<p>・ 可能な限りマッチングするよう調整したいと考えています。なお、マッチングに当たっては、高齢者支援施設と障害者支援施設等のを区分けをしたうえで、応援施設・職員及び受入施設の意向を確認いたします。</p>
<p>4 応援職員について、1人あたりの応援期間はどの程度か</p>	<p>・ 応援期間については、原則3ヶ月程度をお願いしたいと考えていますが、2週間から応援可能な範囲内でお願しいたいと考えております。</p>
<p>5 実際に応援先で働く勤務先はどのような施設か。また、どの自治体で勤務することになるのか。</p>	<p>・ 応援先は、福島県相双地域等(4市、7町、3村)の特別養護老人ホーム及び介護老人保健施設並びに障害者支援施設、障害児入所施設及び宿泊型自立訓練施設を想定しています。また、マッチングに当たっては、応援施設及び職員双方の意向を確認いたします。</p>
<p>6 応援登録後のスケジュールについては、どのようなようになるのか。 今後応援可能な職員の取り扱いについて追加募集はあるのか。</p>	<p>・ 今後、相双地域等の要請を受けて調整を行い、その後応援をお願いすることになります。なお、現地の事情によつては、直ちに応援をお願いする場合、また、マッチングに時間を要することもありますのでご留意願います。 ・ 今回の調査は、当面の応援可能人数を把握するためのものです。今後、相双地域等からの要請があれば応援可能人数について、追加調査をしたいと考えています。</p>
<p>7 東京電力福島第一原子力発電所事故による危険地域に行くことはないのでないのか。</p>	<p>・ 現在、「警戒区域」と「避難指示区域」の概念は、「警戒区域」、「帰還困難区域」、「居住制限区域」(※)、「避難指示解除準備区域」、「計画的避難区域」に区分されています。今回の応援対象施設は、いずれにも該当しない地域に所在する施設であり、当該地域においては、地域住民の方も平常に生活されています。今回の応援は、危険な地域に行くものではありません。なお、当該地域の放射線情報については、こちらをご覧ください。 http://fukushima-radioactivity.jp/ ※原子力災害対策本部において、特例的に事業継続を認められている「いいたてホーム」については、応援対象施設とする。 (参考) 「警戒区域」…原子力災害対策特別措置法第20条第3項の規定に基づき、緊急事態応急対策に従事する者以外の者の立入りを制限している区域。 「帰還困難区域」…5年間を経過してもなお、年間積算線量が20ミリシーベルトを下回らないおそれのある、現時点で年間積算線量が50ミリシーベルト超の地域 「居住制限区域」…年間積算線量が20ミリシーベルトを超えるおそれがあり、住民の被ばく線量を低減する観点から引き続き避難の継続を求める地域 「避難指示解除準備区域」…年間積算線量20ミリシーベルト以下となることが確実であることが確認された地域 「計画的避難区域」…これまで放出された放射線量から計算して、事故後1年間の放射線量を積算すると20ミリシーベルトに達する可能性がある地域。 注 避難をするのが望ましいとされる国際放射線量基準は20～100ミリシーベルト</p>

【 】書きのある質問は、過去に厚生労働省から発出している通知において方針を示しているもの(日付は通知発出日)